



「障がいがあっても
“楽しい”は同じ」

車椅子バスケットボールチーム「埼玉ライオンズ」の選手とミニゲームを楽しむ鳩山中学校の生徒（写真上）。試合を楽しんだ後は、齋藤選手らから、前向きになれる言葉をたくさんいただきました。（写真右）

「できなかったら工夫する
あきらめたら進めない」



ふれあい講演会後の 鳩山中学校生徒の清らか言葉

- ◆障がいがある方は大変でつらいと思っていましたが、実際には楽しいことや生きがいもたくさんあってとてもすごかったです。
- ◆「失った物より残っている物を大切にしよう」と聞いて、私もがんばろうと思いました。
- ◆「チームに要らない人はいない」という言葉で自信が持てました。
- ◆多少の差はあるかも知れませんが、色々な人の協力や気づかい次第で変わるんだなと思いました。
- ◆「障がい者だから色々な人や優しさ、うれしいことや楽しいことに出会えた」ということを聞き、本当にすばらしいと思いました。

『豊かな心をはぐくみ生きるとは』と題して、11月25日、鳩山中学校で行われた「ふれあい講演会」でも、すばらしい言葉たちにたくさん出会えました。

この事業は、町（健康福祉課）と町内小中学校が連携して行っている「子どもと障がい者のふれあい事業」です。学校の授業の中で、障がい者の方の体験談やふれあいを通じて、障

デモゲームの体験中、競技している生徒や先生をはじめ、見ている生徒も選手も、終始とても楽しそうでした。ミニゲームを終えた直後の感想でも、皆が「手だけで動くのは大変だけど、とにかく楽しかった」と次々に口にしていました。

体験後の講演では、競技用と通常の車椅子との違いや、車椅子での移動は段差や階段が大変といった話がありました。そして、選手たちの前向きに生きる言葉の数々は、多くの生徒たちの心に届いたようでした。

がいに對する正しい理解と認識を深め、福祉の心を育てます。

講師を務めたのは、関東車椅子バスケットボール連盟所属チーム「埼玉ライオンズ」の齋藤智之選手らの3人。全員、さまざまな理由で足に障がいがあります。

講演会の前に、まず行われたのは車椅子バスケットボールのデモゲームでした。競技の楽しさを体感してもらいたい、選手たちのそんな思いがありました。

前向き思考

「ふれあい講演会」に学ぶ

新年を清らかな言葉で迎える

新春企画

新年号では、町中で出会った素敵な言葉の数々を、「広報紙の年賀状」としてお届けします。新年を迎え、新たな気持ちでスタートしてみませんか。

「やさしさをつなぐバトンパス」

「自分から声をかけていく」

「気持ちを言葉にする勇氣」

「皆、同じ人間なんだ」

「子どもたちの人権作文の発表に心を打たれた」。12月5日、町文化会館で行われた「人権問題を考える町民の集い」での来場者の一人が口にした言葉です。

「人権問題を考える町民の集い」に見る

やさしさと勇氣

人権作文発表での清らか言葉

鳥畑心花さん



◆やさしさをつないでいって、バトンパスをしていけば、そのやさしさはたくさんの人に広がっていくと思います。やさしさの広め方は、つまり、「やさしさバトンパス」です。

宮崎かりすさん



◆どんな人とも、勇氣を持って話しかければ、心が温まり、なかよくなって、近い関係になれると思います。これからは、色々な人と仲良くなれるように、自分から声をかけていきたいです。

人権問題について町民みんなで理解を深めようで行われた同イベントでは、鳩山中学校吹奏楽部の演奏でスタート。軽快な音楽で来場者の心も和みました。

続いて、町内の小・中学生4人による人権作文の朗読が行われました。子どもたちの純真でまっすぐな思いが伝わってくる発表に、会場は大きな拍手で包まれていました。

◆その子がちゃんと嫌だと言ってくれたので、もう言わないようにしようと反省できました。気持ちを言葉にするって勇氣のいること。勇氣を持って言ってくれたことにとても感謝しています。



山中雨花さん

◆「人種差別はあってはならない、皆同じ人間なんだ」という考え方に变えてくれた黒人男性との出会いは、自分を支えてくれた体験で、一生忘れません。



山田拓弥さん

漫才師林家ラリス・カレー子さんによる、「人生互いに思いやり、いつまでも夢を持って生きよう」と題した講演も好評でした。（写真右）

「〇〇のくせにのくせに」は取る」「自分が豊かになると人にやさしくなれる」など、笑いを交えた数々の名言は、多くの方々の心に刻まれたようです。



※作者の了解を得て、原文を編集して掲載しています。なお、人権作文の全文は、2月に全戸配布する予定の人権作文集「あおぞら（第25集）」でお読みいただけます。